

# 地域再生計画

- 1 地域再生計画の名称  
活力と潤いのある緑豊かな美しいながい再生計画
- 2 地域再生計画の作成主体の名称  
長井市
- 3 地域再生計画の区域  
長井市の全域
- 4 地域再生計画の目標

長井の地名は「水の集まる所」に由来している。山々には、無数に沢が走り、市内を流れる置賜野川、置賜白川、最上川に注ぐ「水」の豊かな地である。

野川は長井市の水瓶として市民生活にとって重要な役割を担っている。この川は、朝日連峰の平岩山を源として広い流域から水を集めている。奥深い谷間の豊富な残雪は、少しずつ解けながらも夏まで水を蓄え、緑豊かな広大なブナ林は、保水力があり「緑のダム」の働きをする。さらに先人の努力によって建設された木地山ダムと菅野ダムが大事に水を蓄えている。市街地には今も網の目のように水路が走り、昭和30年代までは家の中に水を引き、生活用水として活用していた。現在でも消流雪のための水路として活用されている。

市の水道は清流・野川の伏流水を取水しているので、とてもうまい水ともてはやされている。その河原では、山形の秋の風物詩・芋煮会が開かれ、仲間や家族連れの市民でにぎわっている。

また、市内各神社に伝わる黒獅子の幕には、さざ波の模様を取り入れたり、市の史跡である宍日上人の火伏せの水など深く水や川にかかわる伝統文化が根付いている。無意識の中に水の持つ奥深い歴史を心に刻みながら、今の芸術、文化を愛する風土が生まれることになった。

産業面においても、最上川は約300年前、上杉米沢藩の舟運をもたらし、藩の陣屋も置かれ商人町として栄えた。近代以降も、豊かな水資源のもと、製糸業をスタートに、戦前に誘致された東芝長井工場の企業城下町として電子産業が集積した。現在の内容は、製造事業所総数約300の内、半数が金属電気機械に関わり、製造品出荷額の8割を占め、市内産業を牽引している。各事業所の保有技術には、多様な金属加工、プラスチック成型と省力化機械の設計製造などがあり、一通りの製造工程が揃っている。

このように私たちの住む長井は「水の長井」と呼ばれているように、美しい水を基盤として、生活、文化、産業を営んできた。

しかし、長く本市の産業を中心的に支えてきた東芝が電子産業の海外シフトの影響で撤退した以後、ポスト企業城下町の産業の振興が課題となっており、新たな産業の柱として期待される観光産業においても、樹齢1200年の久保桜や草岡大明神桜などの桜回廊やあやめ、白つつじなどの花公園に90数万人余の観光客があるものの、通過型観光となっており、産業としては未成熟である。また、長井のアイデンティティといえる美しい水も生活排水による河川等の汚れが目立つようになってきた。

これらの課題に対応するため、これまで培ってきた製造業の基盤技術を中心として更なる技術集積を進め、製造品出荷額の拡大はもとより、付加価値率の向上を実現していくとともに、公共下水道整備事業、浄化槽設置事業を組み合わせた汚水処理施設の効果的な整備により生活排水による河川等の汚れを改善させ、美しい水と最上川舟運の面影を残す町屋や近代建築物などの資源を活用し、通過型観光から滞在型観光への転換を図ることによる地域活性化が必要である。

具体的には、電気金属機械産業の集積があり一通りの製造工程が揃っていることから、ポスト企業城下町のものづくりコミュニティーの今後の方向性として、中堅技術者の養成と雇用機会の創造を図ることにより、今後発展が予想される省力化装置産業、いわゆるロボット関連産業の振興を図る。

また、生活排水処理整備事業により汚水処理人口普及率を向上させ、市内の美しい水環境を観光資源としても活用するとともに、従来からの観光資源と最上川の舟運で栄えたまちの名所を小道でつないだ「フットパス」や環境保全の取り組みとして全国的に注目されている「レインボープラン」などを新たな観光資源として活用しながら、異業種の交流を進め、地場の農産物を使用した特産品の開発や観光物産情報発信といった新たなサービス産業の振興を図り、多様で質の高い観光サービスを提供することにより滞在型観光への転換を図る。

(目標1) 汚水処理施設の整備を促進する。汚水処理人口普及率を65.1%から86.3%に向上する。

(目標2) 野川のBODを1.7mg/から1mg/にし、白川のBODも同様とし、併せて最上川のBODを1.5mg/から1mg/以下に水質を向上させる。

(目標3) 製造品出荷額を拡大するとともに、付加価値率を向上する。ここ数年600億円程度で推移している製造品出荷額を800億円台に復帰する道筋を整える。また、現在50%程度で推移している付加価値率を5%程度向上する。こうした成果により、計画期間における80人程度の新たな雇用を創出する。

(目標4) 観光業を産業として把握するために、関係企業、商店の売り上げを指標とすべきであり、異業種交流等に参加する関係者の売り上げを10%改善する。地域全体では、新たな観光分野の振興により、計画期間における30人程度の雇用を創出する。

(目標5) 地域提案型雇用創造促進事業(パッケージ事業)については、95名の新たな雇用を創出する。(目標3及び目標4の内数)

## 5 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

本市の産業の中核である製造業の強化と観光の振興による地域活性化を図る。

製造業については、これまで、各企業の連携を進めるために、若手後継者、中堅社員、技術者による交流の場として、人材育成事業を推進してきており、これまで企業城下町として縦系列にあった企業関係から、受発注や人材育成のパートナーとしての横の連携が生まれてきており、企業間の相互理解が進んでいる。今後は、新卒者を含めた就業希望者に対する指導の充実と既に高度な技術を有する者のUターン誘導により課題に対応できる人材の育成、確保を図るとともに、企業の技術開発の支援を行うことで装置製造技術の向上、基盤技術の集積、製造量の増加を図り、また、二足歩行ロボットを活用したイメージ戦略により集積地としての評価を形成することで、ロボット関連産業の振興を図っていく。

観光においては、まず、河川等について観光資源としても活用できるよう、窒素の除去も可能な高度処理型の合併処理浄化槽を設置する浄化槽事業(市町村設置型)に取り組み、あわせて、市街地を中心とした事業認可区域をほぼ整備し終えた公共下水道事業に、新たに特定環境保全公共下水道事業として野川の上流区域を加えて、美しい水の保全を図る。

また、まちなか観光の視点がようやく注目されてきており、「花」や「黒獅子」といった伝統的なまつり観光と「フットパス」や「レインボープラン」などを活用した体験型・研修型の観光を組み合わせた新しい観光プラン等の研究が進んでいる。これらの地域素材のコーディネイターや体験型観光に対応できるインタープリター、ITによる情報発信の専門家など、観光の中核的人材を育成するとともに、本市に興味を持っていただける市外（特に都市部）在住者を取り込むことで、既存の観光・物産関連事業に携わる者の技術等の向上を図るとともに、情報産業などの新たなサービス業の振興や農、工、環境等の異業種とも連携した多極的な観光産業を育成する。

#### 5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

##### 汚水処理施設整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続きを終了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・公共下水道.....平成17年9月に事業認可

##### 【事業主体】

- ・いずれも長井市

##### 【施設の種類】

- ・公共下水道（特定環境保全）
- ・浄化槽（市町村設置型）

##### 【事業区域】

- ・公共下水道（特定環境保全） 川原沢・中里地区、新町・仁府地区、大沖・西館地区、宮内地区
- ・浄化槽（市町村設置型） 長井市全域（公共下水道・農業集落排水区域以外）

##### 【事業期間】

- ・公共下水道（特定環境保全） 平成18年度～平成21年度
- ・浄化槽（市町村設置型） 平成17年度～平成21年度

##### 【整備量】

- ・公共下水道（特定環境保全） 100～ 250 L = 20,909m A = 87ha
- ・浄化槽（市町村設置型）
 

5人槽	219基	(H17 27 H18 48 H19 48 H20 48 H21 48)
7人槽	230基	(H17 30 H18 50 H19 50 H20 50 H21 50)
10人槽	11基	(H17 3 H18 2 H19 2 H20 2 H21 2)

なお、各施設による新規の処理人口は以下のとおり。

公共下水道（特定環境保全） 1,460人 浄化槽（市町村設置型） 2,815人

##### 【事業費】

- ・公共下水道（特定環境保全）事業費 1,077,000千円（うち交付金538,500千円）  
単独事業費 704,000千円
  - ・浄化槽（市町村設置型） 事業費 489,348千円（うち交付金163,116千円）  
単独事業費 62,302千円
- 合計 事業費 1,566,348千円（うち交付金701,616千円）  
単独事業費 766,302千円

#### 5 - 3 その他の事業

- 5 - 3 - 1 地域提案型雇用創造促進事業（パッケージ事業） C0901

長井市と市内の経済団体（商工会議所、観光協会、JA、工業会）、NPO、有識者等で構成する長井市地域雇用創造協議会を設置し、この協議会が実施主体となり、平成18年度から平成20年度までの期間で、以下に掲げる事業を実施する。

## 【ロボット関連】

求職者の技能向上と即戦力の発掘を重点とした事業

### （1）能力開発メニュー

求職者の市内企業での委託研修を実施

市内で就業を希望する者に対して、一定期間、市内企業で技術研修を実施する。指導カリキュラムは、研修生を受け入れる企業で任意に設定し協議会に登録する。想定する研修内容は、NC工作機械、CAD/CAM等の実用技術の内、中核技術について人材を育成する。研修生は、カリキュラムを選択し、研修を受ける。

山形大学MOTへの委託研修

山形大学工学部では、社会人を対象として製造企業における営業技術者の養成を目的とした講座を設けている。この分野の講座は、市内企業や公的訓練施設では設けられていないことから、市内で就業を希望する求職者で、営業技術を志望するものを対象に、山形大学へ研修を委託する。

市内企業による高校生を対象とした在学中の実習を実施

市内には県立工業高校があり、在学中の3級技能検定取得に取り組み成果を挙げる一方で、高卒者の3年以内の離職者が4割程度に達するなど、新たな求職者を生んでいることから、市内に就職を希望する高校生を対象に、市内企業による高度な技術指導を行う。

### （2）情報相談メニュー

出身大卒予定者を対象としたインターンシップ

大学卒業者の就職率が9割程度となっていることから、市内出身の大卒予定者の就業先として市内企業を選択肢としてもらうことを目的とするが、専門的な立場でない限り、一般市民に優良な企業が知られていない現状がある。そこで、首都圏での企業説明会を開催し、夏季休暇等の帰省時期を利用した職場体験会を実施する。

UJインターフェアの開催

田舎暮らし等を希望する首都圏技術者等を対象に長井UJインターフェアを開催する（田舎暮らし志望の専門誌等への掲載）。対象者は、市内への永住、短期滞在、一定期間の往復などを想定し、市内企業及び市内企業で行う求職者への技術指導にあたる。

新規就業者の定着化を重点とした事業

### （1）能力開発メニュー

高度退職技能者を確保し、社内指導者、新規就業者等への指導

企業での委託研修や新規就業後の社内教育を行う場合に、社内、または域内の指導者だけでは対応しきれない場合、県外等の退職技術者を確保し、派遣する。

## 【観光・物産関係】

### （1）雇用機会創出メニュー

外部人材招聘セミナー

観光・物産事業者に人材育成の重要性を再認識させる目的で、観光先進地における成功事例セミナーを実施。

経営アドバイザー招聘

雇用の受け皿である経営者の当該事業に対する理解を深めてもらう目的で、経営者・創業希望者を対象にした雇用相談・経営コンサルティングを実施。

観光 NPO リーダー研修委託事業

観光物産事業の受け皿となる NPO 分野のリーダー養成のため、人材を県外観光 NPO に派遣する。

## (2) 求職者の技能向上メニュー

〔共通メニュー〕

観光基礎講座

観光学の基礎、マーケティング、商品開発、販売と観光物産の営業人材を育成する。

〔情報発信技術者育成メニュー〕

HP 作成管理講座

観光・物産事業における IT 部門のけん引役を確保するため、ホームページ作成の基礎から、更新管理のノウハウまで、IT による情報発信の専門的人材を育成する。

商品開発講座

商品開発力や営業戦略の向上を図り、販路拡大の基盤を構築するため、地域の素材をコーディネートしながら、旅行や土産物など幅広い商品を開発し、販売戦略を構築できる人材を育成する。

〔インタープリター育成メニュー〕

講師再訓練講座

インタープリター養成事業の委託先の講師スタッフを外部のインタープリター養成講座に派遣する。

インタープリター研修事業委託料

今後需要が見込まれる視察観光を担うスタッフの養成を「長井まちづくり NPO センター」、「レインボープラン推進協議会」への委託により実施する。

〔販売接客技術者育成メニュー〕

販売スキルアップ講座

観光物産事業に必要な営業、接客のスキルアップ講座を実施する。

観光接客販売リーダー研修委託事業

当該分野の中核的人材を養成し、販路拡大を図るため、リーダー養成のために県外施設に人材を派遣する。

## (3) 情報相談メニュー

インターネットホームページ運営委託事業

事業ピーアールやセミナー参加者などの利便性を図り参加者の拡大を目指すため、当該事業の情報提供、参加申込受付のため HP を運営する。

### 5 - 3 - 2 その他、本市が独自に取り組む事業

#### ・レインボープラン事業

市民と行政協働による域内バイオマスの有効活用により、生活系生ごみを堆肥化し、農地に還元し地力の向上と環境保全型農業の推進し、安全な食の循環を図っている。

#### ・最上川フットパス事業

最上川の魅力的な場所と沿川の観光資源を小道や裏道などで結び、歩いて水辺空間やまちなかのいきづかい、歴史的な建造物を楽しむ事業を展開している。

- ・リサイクル推進グループ「清流」  
きれいな環境づくりを目指し、リサイクル事業の推進と廃食油を再利用したせっけんをつくっている。
- ・菜の花の村・未来づくりの会  
自然と人々との共生を基本にし、豊かな自然環境を守り、安心して快適な生活が営める環境づくりに取り組んでいる。
- ・野川の自然を愛する会  
「野川」の自然を愛護するボランティア活動を展開している。公共事業で整備された河川敷公園などの維持・整備活動に取り組んでいる。
- ・不伐の森に親しむ会  
不伐の森に込められた「緑の地球、生命の源、森林を守り育てていこう。」という想いと行動の輪を広げることを目的に活動している。
- ・「水辺で遊べるわらしっこ広場」整備促進協議会  
昔のように川で遊ぶ機会が少ない今の子供達に、川で遊ぶ楽しみと思い出作りの場を作ってあげたいという想いで、広場の整備と四季を通じた川遊びなどを行っている。
- ・西置賜製造業強化事業  
ものづくりにおける後継者、中堅社員、技術者を対象とした塾により、企業が連携する場面作りを行っている。
- ・ものづくりコミュニティ推進事業  
これまで中堅技術者が技術集積の手段として取り組んできた二足歩行ロボットの競技会を開催し、全国の企業、研究者との交流や市内製造業の情報発信を行う。
- ・長井市観光・物産事業  
あやめ、つつじ、桜などの花観光、黒獅子まつりなどの観光に取り組んできたが、市民協働による新たなイベントなどを通じた観光の活性化にも力を入れている。  
また、物産開発・販売については、市内事業者による商品展示やパッケージ方法の研究会等を通じて販売促進に取り組んでいる。

## 6 計画期間

平成17年度～平成21年度

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す数値目標に照らして毎年度末に状況を調査し、評価・公表する。また、必要に応じて事業の内容の見直しを図るため、地域再生計画に基づく実施計画を年度毎に策定する。

## 8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

浄化槽整備計画については、既存の「長井市生活排水対策推進計画」に基づき検討したものであるが、一部掲載された内容が異なる計画としたため、次回の推進計画の見直し時に反映することとする。